

事業所の概要表

(令和元年10月8日現在)

事業所名	グループホーム福寿					
法人名	社会福祉法人 回生会					
所在地	愛媛県西条市3383番地					
電話番号	0897-52-1058					
FAX番号	0897-53-8055					
HPアドレス	http://					
開設年月日	平成 13 年 4 月 5 日					
建物構造	<input type="checkbox"/> 木造 <input type="checkbox"/> 鉄骨 <input checked="" type="checkbox"/> 鉄筋 <input checked="" type="checkbox"/> 平屋 () 階建て () 階部分					
併設事業所の有無	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (特別養護老人ホーム、同.(ユニット型、)デイサービス、ケアハウス、居宅、ヘルパーステーション)					
ユニット数	2 ユニット		利用定員数 18 人			
利用者人数	18 名 (男性 2 人 女性 16 人)					
要介護度	要支援2	0 名	要介護1	4 名	要介護2	8 名
	要介護3	3 名	要介護4	3 名	要介護5	0 名
職員の勤続年数	1年未満	6 人	1~3年未満	3 人	3~5年未満 3 人	
	5~10年未満	7 人	10年以上	0 人		
介護職の取得資格等	介護支援専門員 2 人		介護福祉士 4 人			
	その他 (ヘルパー2級 1人)					
看護職員の配置	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (<input type="checkbox"/> 直接雇用 <input checked="" type="checkbox"/> 医療機関又は訪問看護ステーションとの契約)					
協力医療機関名	西条愛寿会病院					
看取りの体制 (開設時から)	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (看取り人数: 0 人)					

利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	20,000 円				
敷金の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 円				
保証金の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 円 償却の有無 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有				
食材料費	1日当たり	1,133 円	朝食:	円	昼食: 円
	おやつ:	円	夕食:	円	
食事の提供方法	<input checked="" type="checkbox"/> 事業所で調理 <input type="checkbox"/> 他施設等で調理 <input type="checkbox"/> 外注(配食等)				
その他の費用	<input type="checkbox"/> その他 ()				
	・ 水道光熱費	9,450 円			
	・ 日用品代	3,150 円			
	・	円			

家族会の有無	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (開催回数: 2 回) ※過去1年間				
広報紙等の有無	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (発行回数: 4 回) ※過去1年間				
過去1年間の運営推進会議の状況	開催回数	6 回 ※過去1年間			
	参加メンバー ※□にチェック	<input checked="" type="checkbox"/> 市町担当者	<input type="checkbox"/> 地域包括支援センター職員	<input type="checkbox"/> 評価機関関係者	
		<input checked="" type="checkbox"/> 民生委員	<input type="checkbox"/> 自治会・町内会関係者	<input type="checkbox"/> 近隣の住民	
		<input type="checkbox"/> 利用者	<input type="checkbox"/> 法人外他事業所職員	<input checked="" type="checkbox"/> 家族等	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他 ()				

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

- (1) ケアマネジメント
- (2) 日々の支援
- (3) 生活環境づくり
- (4) 健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	令和元年11月13日(水)

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数)	13	(依頼数)	18
地域アンケート	(回答数)	5		

※アンケート結果は加重平均で値を出し記号化しています。(◎=1 ○=2 △=3 ×=4)

※事業所記入

事業所番号	3870600362
事業所名	社会福祉法人 回生会
(ユニット名)	グループホーム 福寿 A棟
記入者(管理者)	
氏名	寺川 安子
自己評価作成日	令和 元年 10 月 8 日

<p>【事業所理念】※事業所記入 グループホームの理念 一人ひとりの幸せ、安らぎづくり</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】※事業所記入 5C・利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子、言葉や動作、表情、支援した具体的な内容を個別に記録するよう職員会等で話し合い、具体的な言葉や表現をするようにしている。 13A・日常的な外出支援については、日常的に敷地内を散歩したり、2ヶ月に1回程度は、ドライブ等に出かけて花や、景色を見て楽しみ、おやつを買って食べたり楽しむことができる。また、近くのオペラカフェに行きデザートやお茶を楽しんでいる。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 田んぼに囲まれた法人の敷地内の一角に立地しており、大きな案内板で事業所の場所がわかる。建物前の庭には、桜の木や緑が多く、季節ごとに楽しめる。畑では野菜を育てている。 事業所で小型犬を飼っており、利用者は世話したり、声をかけたりしている。 日常的に敷地内を散歩できるよう支援しており、調査訪問日も数名の利用者が職員と一緒に散歩に出かけていく様子がみられた。</p>
--	---	--

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	日々の言動や表情を見ながら声掛けを行い、利用者一人ひとりの思いや暮らし方希望、意向の把握に努めている。	◎		◎	3ヶ月に1回「生活状況を把握するためのアセスメントシート」を作成して、思いや意向の把握に取り組んでいる。課題分析表1やアセスメント用紙の主訴の欄に本人や家族の希望や意向を記入している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	◎	本人と良く話し「本人は、どうか？」等、問題があれば申し送りや職員会で話している。				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	◎	家族や親戚、友人、地域の方が来られた際、話し合いを行い、又、連絡も密にとっている。				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	◎	経過観察、支援記録、申し送りノート等で職員の情報の共有化を行っている。				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	利用者様の思いを聞き、時間の空いている時、申し送りなどで、意見交換を行い、思いを尊重している。				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	居室には馴染みのある物を置いたり、家族や友人の方から利用者様に関する情報を得ている。			◎	入居時、利用者や家族、入居前に利用していた介護事業所などから聞き、入居の経緯、家族状況、生活歴、居住環境、暮らし方、趣味、社会との関わりなどの情報を課題分析表、個人調査、アセスメントシートに記入している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	24時間シートを見ながら利用者様が出来る事や見守りにより必要な部分を明確にし、現状把握に努めている。				
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	◎	心を穏やかにするリハビリ体操・レクリエーションを毎日行っている。声掛けにより不穏になる場合もあり、十分気を付けている。				
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかり等)	◎	不安な状態になった時、否定せず、利用者に寄り添い、不安を探し、不穏にならないように努めている。				
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	◎	経過観察支援記録、リズムパターンシートに日々の変化を記録している。				
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	利用者様の立場になり、考えているが、求めていることをすべて理解することは、難しい。			◎	3ヶ月に1回のサービス担当者会議は、本人、家族も参加して行っている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	◎	24時間シートに必要なことを明確にしている。				
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	24時間シートサポートに必要なことを明確にしている。				
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	◎	サービス担当者で要点や個人の短期目標をたてて反映されている。				
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	◎	サービス担当者会議で利用者様、御家族様と話し合い、会議中に出た意見の検討や、それぞれの課題をもとに作成している。	◎	◎	◎	サービス担当者会議時に話し合った内容を反映して介護計画を作成している。「家族と一緒に外出したい」という利用者には、月1~2回の家族との外出を計画に採り入れている。
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容になっている。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	地域の方々との協力体制の仕方が不明確でわからない。				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	3ヶ月毎に計画書の見直しを行い、内容を把握、理解し、職員間で共有している。			○	ファイルに、サービス担当者会議の要点、サービス計画書を綴じて共有している。介護計画見直し後に、サービス担当者会議の要点、サービス計画書を職員は確認することになっており、確認した職員は押印するしくみをつくっている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	日々の支援記録、毎月のモニタリングに記載し、支援につなげている。			△	介護記録に、介護計画内容に振った番号と支援した内容を記入することになっているが、記入は少ない。
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	毎日、支援記録、リズムパターンに記録し、支援につなげている。			△	介護記録に利用者の日々の言葉や動作、表情を記録しているが、介護計画に基づいたという点では、記録量が少ない。
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	支援経過、生活観察記録に具体的な内容を記録している。			△	介護記録や連絡帳に記入しているが、介護計画に基づいたという点では、記録量は少ない。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	介護保険の期間に合わせて3ヶ月ごとに見直しを行っている。特に状態が変化した場合は、その都度行っている。			◎	計画作成担当者が、介護度や認定期間、認定年月日などを一覧表にして期間を管理している。	
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	月1回、職員の意見を聞き、話し合って現状確認を行っている。			◎	月1回、利用者個々の担当職員がモニタリング実施記録表を作成し、その情報をもとにユニット会議時に現状確認を行っている。	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	日々の申し送り、サービス担当者会を行い、家族、医療機関と話し合い、課題解決に向けて計画作成を行っている。			○	退院時など、状態変化時には、家族や医療関係者とサービス担当者会議を行い、見直しを行っている。この1年間では事例はなかった。	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	月1回、職員会を開催し、一人ひとりの課題について話し合っている。			◎	月1回、職員会を行い、職員会議録を作成している。ヒヤリハットや事故発生時には、その日の勤務職員で話し合い、連絡帳に記録している。	
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	職員間は、チームワークが良く、お互い信頼関係が築かれており、活発な意見交換ができています。					
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	職員が多数参加できる日を設定し、参加できない職員は、議事録を読み、内容を確認をしている。					
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	申し送りで伝えたり、議事録を回覧して正確に伝える仕組みになっている。			◎	職員会議録で確認して、押印するしくみをつくっている。印が揃ったかどうかは管理者が確認している。	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	毎日、支援記録、リズムパターンに記録し、支援につなげている。職員ノートを読み申し送りの際、必ず伝えている。確認印を押す。			○	伝達事項は連絡帳に記入しており、職員は内容を確認して押印するしくみをつくっている。内容によっては、管理者が口頭で伝えている。	
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝えるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	ミーティングの場や職員個々に伝えたり、連絡ノートに記載し、周知徹底を行う。		○			
(2) 日々の支援										
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	個々にあったレクリエーションの呼びかけ、散歩など行っている。				多くのの中から選ぶことが苦手な利用者には、二者択一で選べるように支援している。レクリエーションの時間には、パズルや塗り絵、計算問題などを用意して利用者が行いたいことを選べるようにしている。	
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	◎	日常生活の場面で利用者の思いや希望を聞き、自己決定している。			○		
		c	利用者が思いや希望を表現できるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	散歩を好まれる方や、塗り絵を楽しまれたり、個々の要望に応じ、本人が選択できる様、支援している。					
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	職員は個々の生活リズムを把握して、本人のペースに合わせた支援を行っている。					
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉かけや雰囲気づくりをしている。	◎	利用者全体が共有する歌を唄い、楽しい気分を高めたり、個々の自身につながる場面作りを心がけている。			○		法人の音楽療法士による音楽療法を採り入れている。
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	◎	思いやりのある言葉掛けや興味のある物を提供したり、反応を見ながら楽しく過ごせる様支援している。					
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	◎	言葉掛けやプライバシーには常に配慮し、態度等は常に意識している。	○	○	○	職員会議時に勉強会を行っている。職員は姿勢を低くして利用者と目線を合わせ敬語で声かけをしていた。	
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉かけや対応を行っている。	◎	個人や他の利用者様に対しても、違和感のない声掛けや、言葉使いで介護や誘導を行っている。			○	居室に戻る利用者がトイレの前を通った時を捉えて、「トイレに行っておきませんか」と誘っていた。	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	◎	排泄時は、他者がトイレに入らないよう注意し、ドアの外からノックや声掛けを行っている。					
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	居室の入り口で声掛けてから入室し、必要時には、本人に伝え入室している。			△	居室入口の扉を開けたままにしているところがある。調査訪問日、職員は自由に入出入りしていた。	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	利用者のプライバシー保護や個人情報について理解し、守秘義務を遵守している。					
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者にも助けを求めたり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	職員が少し困難な場面に遭遇した時は、助けてくださったり、教えてもらったりの関係性は、築いている。					
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	利用者同士が手を差し伸べ助け合えあっている光景は、共同生活の場において大切なことと理解している。					
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	◎	トラブルを軽減する為、席替えを試みたり、孤立しがちな利用者が、気兼ねなく話し合える関係を重視した場所作りをしている。			○	利用者同士の関係性を踏まえ、席順を決めている。	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	職員はトラブルに対し仲裁に入り解消に努め、当事者や他者に支障が生じない様細心の配慮をしている。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	◎	入所時に情報を入手し、把握している。				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	◎	入所時、家族様より情報を入手し把握している。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	外出された時、家族が生活されていた場所、お墓参りなどされている。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	訪問されれば、居室に案内し気軽に過ごしていただけるよう心がけている。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	◎	外出可能であれば、外庭散歩、四季折々にはドライブをし、花などを見に行っている。	○	△	○	日常的に敷地内を散歩できるよう支援しており、調査訪問日も数名の利用者が職員と一緒に散歩に出かけていく様子がみられた。 外出行事として、計画を立てて、季節の花見物や初詣に出かけられるように支援しており、その様子を事業所便りに載せている。 車椅子の利用者も外出行事と一緒に出かけている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	外部の協力を得ることは少ないが担当の民生委員さんに外出支援をお願いしている。				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	◎	お天気の良い日には、ホーム周辺を散歩、季節に応じてドライブ、買物、喫茶店などに外出している。			○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	◎	家族より外出支援があれば快く支援している。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	状態の変化があればその都度、要因をひもとき取り除くケアを行っている。				
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	機能低下の特徴を理解し、日々リハビリ訓練を行い筋力低下、機能維持、向上が図れるよう取り組んでいる。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行動している。(場面づくり、環境づくり等)	◎	自立を尊重し、入浴、食事、排泄、お盆拭き、洗濯たみなどの役割、出番を割り振っている。	◎		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	入所されたときの情報、日々の会話から好みや楽しみにされている事を聞きだし、把握する様になっている。				日めくりカレンダーをめくる、洗濯物をたたむ、畑の草引きをするなどの役割をもっている利用者がいる。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	◎	洗濯物をたたんだり、お盆拭き、食材の袋詰め、外庭の草引きなどの役割、出番を割り振っている。	○	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	運営推進会には、出席いただいているが、こちらからの交流は、なし。				
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つと捉え、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	生活暦の中から好みの服装、化粧、身だしなみなど、最大限に引き出すように努めている。				昼食中、あごにご飯粒がついている利用者には、ジェスチャーで伝えて、ティッシュペーパーを渡していた。 利用者はそれぞれ季節に応じた似合う洋服を着て過ごしていた。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	◎	主に入所時に利用者様の好みの服やバッグ、好みの物を持参して使用している。散髪は、訪問を利用し、自分の好みの髪型にしている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	◎	職員がいくつかの選択肢を準備し、本人に自己決定ができる様に支援している。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	選択を職員が準備し、自己決定を本人がする様工夫している。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	整容、髪服装、履物など、本人に自己決定をしていただき、その人に合わせた食後の口腔ケアを行っている。	◎	◎	○	
		f	整容・美容は本人の望む店に行けるよう努めている。	△	整容に関しては、定期的に決まった理髪店が来ている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	◎	好みの服装の中から季節に応じた服装で本人らしさが保てる工夫をしている。			○	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	唯一食べることを楽しみにしており、楽しんで食事ができる様に常に心がけている。				法人の管理栄養士作成の献立に沿って食材が届き、職員が調理している。 利用者は、つくしのはかま取りや、竹の子、たしぼ(イタドリ)の皮を取るなど、下ごしらえを行っている。下膳やお盆拭きなどを行う様子を事業所便りに載せている。 利用者の嗜好、アレルギーについては、アセスメントシートに記載して法人の管理栄養士に伝えており、代替品で対応している。 おついたちの日は、献立に赤飯を採り入れている。事業所の畑で収穫した野菜(豆、ネギ、すいか、南瓜、玉ねぎ、ナス、きゅうり)は、献立に追加している。 入居時に家族が用意した物や、以前から使っていた箸、茶碗、コップを使用している。 職員は、同じテーブルで利用者と同じものを一緒に食べながら見守ったり、食事介助をしたりしていた。 食事をこつくる匂いや音がしていた。 ユニットによっては、ホワイトボードに献立を書き、話題にしている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	◎	買物の仕分け、お盆拭きなど手伝ってくれる。				
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	◎	自ら手を消毒されお盆拭き等、手伝ってくれている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	食品のアレルギーなど把握していないが、好みの物、嫌いな物は把握している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	管理栄養士にて献立が決められている。				
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法として、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろいろり器の工夫等)	◎	管理栄養士の献立表にて調理している。身体機能に合わせ、刻み、トッピングをつけている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	各個人で、好みの物を使用している。				
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	同じ食卓では、食事していないが、食べるペース、食べこぼし等のサポートは、日々している。				
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	ボードにメニューを表記し、生活のなかで利用者様に毎日伝え、楽しみにしていただいている。	◎			
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	食事は、献立表に基づく。水分量は、生活リズムパターンで水分量を把握し、不足しないように心がけている。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	飲物の量を増やし、回数、タイミングで工夫している。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	◎	同法人内の栄養士が行っている。行事により、職員と相談し変更を行っている。				
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	調理器具は、毎日ハイター液につけて消毒、食材は新鮮な物が届けられ、日付の確認を行い、衛生管理に努めている。				
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	毎食後、就寝、起床時の口腔ケアを誘導している。				異常があった場合は、申し送りを行い受診につなげている。 毎食後、口腔ケアを行えるよう支援しており、支援したら生活リズムパターンシートの口腔ケア欄に○を付けている。 昼食後、利用者の状態にあわせて、見守りしたり介助したりして支援していた。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	◎	毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じて口腔ケアを行っている。				
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	△	歯科受診の時、資料を頂き、その際正しい方法を表示している。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	日々、夕食後、就寝前、ホリテントによる殺菌を行っている。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	◎	日々就寝前、殺菌消毒を行っている。必ず見守りされており、異常があればその場で確認している。				
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	◎	不具合が発症すれば、その都度家族様に連絡し、受診の対応を依頼している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能が高まることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	失禁状態が永く続かない様に頻回に、こまめにトイレ誘導を行っている。				利用者の状態や意向を踏まえ、朝の申し送りなどで話し合いながら支援している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	バイタルチェック、リズムパターンシートを日々確認し、表情、言動に注意し、対応している。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	毎日、生活リズムパターンに記録し把握している。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	パッドを3人使用しているが、基本トイレ誘導を行っている。	◎			
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	◎	定期受診の時、DRIに相談、訪問看護と密に連絡を取り、便秘などが長く続かない様に取り組んでいる。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	状況を見ながら、時間を追って早めに誘導を行っている。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういつ時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	◎	利用者様、後家族様と相談させて頂き、選択できる様支援している。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	入浴時、本人の好む衣類を準備していただき、適宜、使い分けている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	◎	体操、廊下歩行、立位訓練を毎日導入し、便秘予防に取り組んでいる。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	○	入浴の長さ、お湯の温度は個人の希望、習慣に沿うようにしている。	◎		○	週3回、午前中に支援している。湯温や長さは利用者に関心しながら支援している。シャワー浴の希望に応じている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	◎	心に残っている楽しい思い出、子供の自慢話をしながらくつろいだ気分で入浴できる様支援している。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	自尊心を尊重し、洗身や更衣等、自分でできる事はしていただき、できないところは、支援している。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	◎	入浴拒否に対しては、原因を理解し、順番を変更し、穏やかに入浴できる様に声掛けに工夫している。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	入浴前のバイタルチェック。直前の表情観察し、入浴許可を見極め入浴後は、水分補給をしている。				
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	リズムパターンシート、支援記録で把握している。				医師と相談しながら、日中の活動(日光浴、パズルや塗り絵、計算問題、音楽療法等)を支援して、安眠や減薬につなげた事例がある。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	◎	昼夜逆転にならない様、昼寝時間の調整、日中の対応、不穏な状態が就寝に入らない様声掛けしている。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	眠前薬処方されていても使用せず、入眠できる場合があり使用しない場合もある。				
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	居室は、本人が自由に安らげる場所で有効活用している。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	家族様から事務所に電話があれば、代わり対応されている。字が書ける方は、請求書送付時に書いたものを一緒に送っている。				医師と相談しながら、日中の活動(日光浴、パズルや塗り絵、計算問題、音楽療法等)を支援して、安眠や減薬につなげた事例がある。
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	△	電話の対応は、できているが、手紙のニーズがなく、年賀状や家族様から手紙が届けば職員が補助し作成されている。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	事務所にしかかってくるので戸を閉めて気兼ねなく話ができる様に配慮している。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	◎	手紙、荷物が届けば、必ず、返信し、電話や手紙でも対応している。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	ホームにかかってきたときなどは、入居者と変わり話をされる。が、本人に直接かかってくる事はまずない。家族の面会が度々ある。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	△	理解は、しているが、認知症の為管理が出来る利用者はいない。利用契約時より金銭の管理は家族としている。				/
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	軽食に出かけたり、おやつを買いに行くことがあるが、職員が預かり金の中から渡して支払いをしている。				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	本人の希望する買物や必要な物は、家族と相談して買物先の理解(体に合うサイズ)や協力を得て行っている。				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	家族が遠方の場合、数千円程度持っている方も居るが、他の方は、預かり金の中から必要な物、希望の物が買えるよう支援している。				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	家族と相談の上、預かり金を利用して必要な物を購入している。領収書を渡し、毎月残金を知らせている。				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	毎月、領収書を渡しているが、出納帳の残金を確認してもらい、残り少なくなった場合は、また、1万円程度を預かっている。				
24	多様なニーズに応える取り組み	a	本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	◎	利用者様の家族様が他県在住や、緊急の場合は、家族に同意を得て職員が病院へ連れて行ったり、救急車で同行するなど可能な限り対応している。	◎		△	家族と出かける際には身支度などを手伝っているが、さらに、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化という点から支援に工夫できることはないか話し合ってみてはどうか。
(3) 生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮	a	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	玄関周辺に季節の花や野菜を植え、緑が多く楽しめる様に工夫をしている。	◎	◎	◎	田んぼに囲まれた法人の敷地内の一角に立地しており、大きな案内板で事業所の場所がわかる。建物前の庭には、桜の木や緑が多く、季節ごとに楽しめる。畑では野菜を育てている。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を持っており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	◎	玄関に花を飾ったり、廊下に壁紙や写真を張ったり、和やかなる雰囲気を作り出している。	○	○	○	事業所便りや職員と一緒に作った貼り絵などを掲示していた。ソファを設置しており、つづろ利用者の様子がみられた。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	毎日707、廊下等はハイター拭きを行なっている。喚起も定期的に行なっている。			◎	居間の大きな窓から自然光が入り明るい。不快な音や光、臭いはなく掃除も行き届いている。
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	季節で壁紙を作成し、季節感を出している。又、季節の花を感じていただける様に近所の散歩を行っている。			○	居間や居室の窓からは、周辺の田の様子が見えて、四季の移ろいが感じられる。事業所で小型犬を飼っており、利用者は世話したり、声をかけたりしている。
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	席の配列を考慮している。居室の出入りも自由にしており、個々の生活ペースを配慮している。				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	◎	カーテンではなく、扉でプライバシーを確保している。				
27	居心地良く過ごせる居室の配慮	a	本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	居室には、家族の写真や絵を飾ったり、使い慣れている鏡台、棚など身だしなみの品を置いている。	○		○	自宅と同じような空間になるように、床に畳マットを敷き、布団を敷いている居室がみられた。外出時の写真を飾っている。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	各エリアに手すりを設置して歩行練習を行ったり、各エリアの表示を明確にしている。			○	居室ドアには、利用者の名前を表示している。トイレや浴室は、イラストで表示している。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	◎	利用者様の担当者がおり、日曜日はより一層掃除、整理がされている。誤飲するような物は目に付く所には置いていない。				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	△	趣味の本や雑誌はあり、閲覧できる様にしているが、定位置化されていない。				
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感、あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	◎	理解し、実行している。	◎	◎	△	身体拘束についての外部研修に管理者が参加し、職員会議時に内容を報告している。この1年間では、4ヶ月程、利用者の状態によって月に2~3回、鍵をかけ対処したようなことがあった。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	自由の大切さと安全確保について日頃から話し合っている。				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	◎	外出傾向がある場合は、職員と一緒に外に出て不穏にならない様にしている。				
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	入所時のサマリーや処方箋で明確になっており把握している。				/
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	小さな変化も見逃さない様に目配りをして変化があれば、援助記録や日誌に記録している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等いつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	かかりつけ医の一覧表を作成して明確にしている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	受診状態はファイルしている。医療機関や医師も明確にしており、受診支援を行っている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	受診状態は残しており、医療機関の医師も明確にしており受診支援を行っている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	受診結果に異常があれば、家族に連絡し、合意を得られる話し合いを行っている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	生活リズムパターンシートや支援記録の情報提供を行っている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	毎週来られる訪問看護師と情報交換を密に行っている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	◎	利用者の定期受診などで主治医との意見交換や相談員との交流を行っている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	毎週の訪問で実行しており、変化がある場合、その都度、連絡し、対応している。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	明確にしており実行できている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	常に外来と連絡を取っており、実行できている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	処方箋を個々に作成しており変更都度、連絡ノートに記載し、目を通しようにしています。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	職員が日付の表示をして個人ごとに朝、昼、夕と区別している。服薬は、誤飲にならない様、個別化している。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	リズムパターンシート、支援記録で明確にしており日々確認している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	変化があれば医療機関や家族に報告し、情報提供している。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	重度化したり、終末期があれば医師、家族と話し合い意向を明確にしている。				看取りの体制は作っているが、支援は行っていない。入居時に、重度化対応・終末期対応指針に沿って説明し、その後は、状態変化時に協力医が家族と話し合うようになっている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	入居時説明しており、重度化、終末期が来た場合、医療機関、家族と話し合い意向を明確にしている。	○		△	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	グループホームでの現状は、この辺までと見極め、その後は、医師、家族に依頼している。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	入所時、明確にしており確認している。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	重度や終末期は、家族と連携を図り今後について話し合っている。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	◎	家族には連絡を密に行っている。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	一部の感染症については、表示している。季節や流行時には、申し送り、職員会などで注意喚起している。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	日頃から訓練を行う体制は、確立されていないが、感染症が発生した場合は、対応できる様にしている。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	△	医療機関からは、感染症予防に関する資料は、入手できている。				
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	△	医療機関からの資料入手はできますが、地域からの対応は、できていない。				
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	手洗いは、日々行っている。来所時の注意事項も表示している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
II. 家族との支え合い										
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	家族の要望を把握し、寄り添った介護を支援する。					
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	◎	利用者様の家族が来所された時、部屋に案内し、お茶を飲みながらお話される。					
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	家族会など行事に参加して頂き、できる事は手伝ってもらっている。天気の良い日は、ホーム周辺の散歩にも同行していただいている。	◎			○	家族会や盆踊り大会に案内しており、ほとんどの家族の参加がある。
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	遠方の家族様に連絡した際、必ず、入居者様にも話して頂く。毎月手紙で様子を伝え、ホーム便りや写真も同封している。	◎			◎	来訪時や毎月の手紙、2ヶ月毎に発行する事業所便りで、暮らしぶりや日常の様子を伝えている。遠方の家族には、月に2回ほど、電話やメールなどで状況を報告している。
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	△	家族が来所された時、気になること、改善すればよい所等、その都度お聞きしている。					
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	◎	食事やお茶の時、一緒にテーブルにつき、利用者同士のサポート、見守り等で支援している。					
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得ようとしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	管理者と職員が面談する機会を持ち、職員会や申し送り等で意見を述べている。	△			△	運営推進会議時に行事について報告をしている。職員の入職や異動については、家族来訪時に伝えているようだ。設備改修、機器の導入については報告していない。
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	年に数回家族会、行事等開催し、お互いにコミュニケーションを図っている。					
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	○	利用者様に何かあれば連絡し、了承を得て対応を話し合っている。					
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	家族様が来所された時、その都度気になる事、改善すれば良いところ等伝えて頂けるようお願いしている。					○
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	入所された時必ず説明し、納得して頂いている。					
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	退去については契約に基づき、納得いく退去先に移れるよう支援している。					
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	契約及び料金改定時は、料金の設定を具体的に説明し家族様から同意を得ている。					
III. 地域との支え合い										
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	運営推進会議の時、出席して頂き、目的などを説明している。			○		
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	行事、会議等に出席していただき、言葉を交わし、感想をお聞きしている。		△	×	秋祭りには、だんじりが来ている。また、法人主催の盆踊り大会には多くの地域の方の参加があるが、日常的な地域とのつきあいはほぼない。	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	自治会やボランティアの方も見守ってくださっているが増えてはいない。					
		d	地域の方が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	会議などの時に、野菜の苗、花などを気軽に持ってきて下さっている。					
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	お会いすれば気軽に挨拶し、盆踊り等行事に参加して頂いている。					
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	地域の方々ボランティアで踊りや色々な演奏などに来てくださり、交流を図っている。					
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	安全な暮らしができています。					
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	消防機関と協力し、避難訓練を実施している。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	◎	家族、地域の人、行政、本部施設長、居宅ケア礼に参加して頂き、近況報告を行っている。	◎		△	毎回、家族、自治会長、民生委員などの参加がある。利用者は参加していない。	
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	◎	運営推進会議で取り組んだ内容を送付し、出席されてない方にも内容を把握して頂いている。			○	入居者状況や活動報告などを行い、事業所便りを配布して利用者の生活の様子などを報告している。評価結果や目標達成計画については、外部評価実施後に口頭で報告している。	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	その場で取り上げられた議題、意見等話し合っている。			○	×	報告内容についての質問はあるが、意見や提案はほぼない。取り組みにつなげたりその結果を報告したようなケースはない。
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	日程が決まれば連絡し、調整をいただいている。			○		
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	修了後、送付し確認していただいている。					
IV.より良い支援を行うための運営体制										
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	職員室に理念を掲げており、申し送り後斉唱している。					
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	◎	玄関の見え易い所に理念を掲げている。	○	○			
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎	春、研修等のプリント等を回覧し呼びかけている。					
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	勤務に合わせ多くの職員が研修に参加できる様に毎月職員会にて勉強会を行っている。					
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	△	労働のやりがい、向上心を持って職員が働ける環境づくりの為、時折職員と話合っている。					
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	毎月管理者会を実施し、意見を出し合い向上に努め、他の職員に申し送り向上に努めている。					
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	直接代表者と話す事はないが、上司経由で環境の改善に取り組んでいる。又、職員会などで伝えている。	◎	○	○		法人で月1回、昼食会があり、職員が参加している。また、忘年会や旅行があり、希望者は参加している。
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	申し送りなどで話し合い、職員会で定期的に勉強会を行い、話し合っている。					
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	申し送りで話し合っている。機会があればその場で対応している。					
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発生した場合の対応方法や手順について知っている。	△	朝、夕の申し送りで話し合っている。定期的な職員会でも手順を勉強している。				○	行為を発生した場合は、管理者に報告することと職員は認識している。
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	直接代表者と話すことはないが、申し送りで体調確認し、休めば連絡を都度取り、職員と機会があれば話し合っている。					
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	△	朝、夕の申し送りで話し合っている。定期的な職員会でも手順を話し合っている。					
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	日々の申し送りや、職員会で身体拘束について話し合う機会を作っている。					
		c	家族等から拘束や施設長の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	要望があった場合、話し合いを重ねながら理解を図っている。					
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	×	勉強、教育不足で十分な理解は、得られていない。					
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	△	相談があれば対応し、支援体制はできている。					
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	△	市の包括支援センターとの連携体制はとれている。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	訪問看護師による指示を頂き行動している。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	定期的講習会を開催しているが参加できない場合が多い。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	ヒヤリハット、事故報告書、申し送り等で話し合い再発防止に努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	日々の小さな変化があれば、申し送りで横展開を図り再発防止に努めている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	△	苦情対応のマニュアルはないが、明確に対応している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	△	苦情があった場合は、上司と相談し明確に対応している。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	△	苦情あれば速やかに対応し、頻りに話し合い解決に努めている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	提案箱が設置されており、運営推進会議などで対応されている。			△	利用者は運営推進会議に参加していない。日々のかかわりの中で聞くようだが、意見や苦情を伝える機会は少ない。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	提案箱の設置、運営推進会議等で対応している。	◎		○	運営推進会議や家族会で、聞く機会をつくっているが、意見や要望は少ない。
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	面会された時、苦情、相談等の情報提供を行っている。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	△	職場に来られることはないが、職員会での意見交換は設けられている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	時間、場所などの設定はないが、日々、常に声掛けをされている。			○	職員会時に意見を聞いている。
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	毎年行えず、外部評価がある年度のみ、全員で自己評価に取り組んでいる。				外部評価実施後の運営推進会議時に、評価結果や目標達成計画について口頭で報告しているが、モニターをしてもらう取り組みは行っていない。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	職員会などで話し合い、向上に向けて意見交換をし、意識統一や学習の機会として活かしている。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	1年間を通して利用者に対する取り組みなど目標を立てて取り組んでいる。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	運営推進会議で伝え、参加されていない方にも会の内容を全員に伝えている。	○	△	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を報告確認している。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	△	周知し、連携はできている。				災害への備えや対応について話し合ったり、地域と共同の訓練を実施する機会は持っていない。地域で防災訓練を行っていない事について、法人代表者が消防署へ相談して、2月に法人の駐車場で実施することになった。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	△	定期的に避難訓練をしているが、夜間帯の訓練は行われていない。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	△	消防設備の点検は、年2回、備品、物品の備蓄は本部で行っている。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	消防署とは、協力支援体制がとられているが、地域住民との連携は、不足している。	△	×	×	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	関連施設間の連携は取れている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自 己 評 価	判 断 した 理 由 ・ 根 拠	家 族 評 価	地 域 評 価	外 部 評 価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	広報誌の活動や認知症について勉強会を開催している。				地域の高齢者や認知症についての相談があれば、法人内の居宅介護支援事業所で受けており、事業所での相談支援は行っていない。 事業所を高校生の職場体験学習の場として提供しているが、地域の他関係機関と地域活動を協働しながら行うような取り組みは行っていない。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	地域の高齢者や認知症の方の相談があれば対応し支援をしている。		△	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	交流の場としてカフェ等を活用している。又、地域の集まりは、盆踊り、大会を開催し、地域の集まりの場としている。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	ボランティアや介護実習の要請があれば受け入れ、協力している。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	市や地域包括支援センターは、運営会議等を通してかわりを持っている。医療では、協力病院と密に連携している。			△	